

菊の挿し芽



本校を「菊の園」と呼ぶようになったのは、初代学校長である木下一雄先生の「立派な葉を持つ草には立派な花が咲く。大泉に学ぶ者たちを立派な葉を持つ草のように育てよう。そしてその草が立派な花を咲かせるように教育しよう。」という言葉に由来しています。

毎年、その菊を一人一鉢育てますが、1年生から4年生までが育てる小菊については、校内に生育している菊からか挿し芽を行います。先日の生活団活動では、団毎に分かれ、6年生を中心に挿し芽の活動を行いました。今年はどうな花が咲くのでしょうか。子どもたちは、どんな環境でもたくましく成長する菊から多くのことを学んでいきます。